

## 週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分  
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年								2025年										
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ～2日	11月 ～9日
カンピロバクター	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	23	36	38	43	27	27	6	5
病原性大腸菌	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	71	93	78	97	83	48	6 (10)	10
腸管出血性大腸菌	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	2	3	3	2	0	1	0	0
サルモネラ	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	6	11	12	11	11	1	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	9	16	8	28	10	20	1 (2)	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	9	11	5	16	10	10	4	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
その他	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	1	1	2	2	2	1	0	0
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0	0	2
ノロウイルス	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	6	2	2	0	3	0	1	0

( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)  
感染症週報

令和7年第45週(11月3日～11月9日)

## 2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	4	結核	4		1	2				1
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症	3							3
四類	2	日本紅斑熱	1		1					
		レジオネラ症	1			1				
五類	27	侵襲性肺炎球菌感染症	2						1	1
		水痘(入院例)	1					1		
		梅毒	5					2	1	2
		百日咳	19		4			5	2	8

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
北部…三次市、庄原市● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

# 週報③

## 広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年45週(11月3日～11月9日)

### ■コメント

#### 1 インフルエンザ

定点当たり11.23人の報告があり、注意報レベル(定点当たり10.0人)を上回りました。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が第45週に18件報告され、今シーズンの累計は30件となりました。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)  
第45週 A型:123人、B型:0人

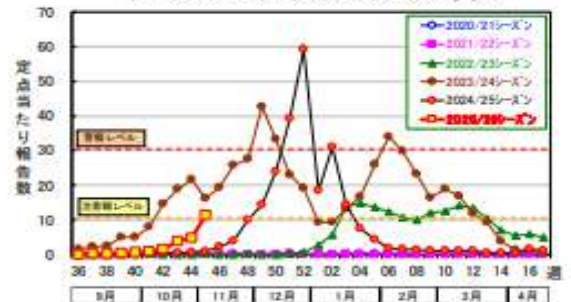
#### 2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり5.67人の報告があり、多い状況が続いています。主な症状は、発熱や全身の倦怠感(だるさ)、頭痛、咳などで、咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

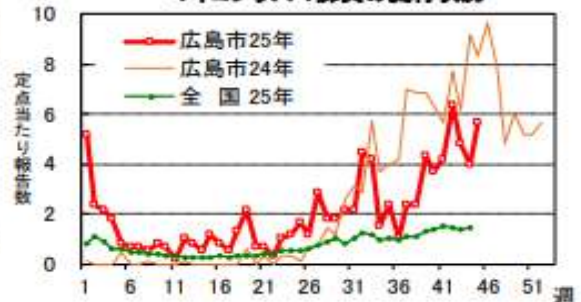
#### 3 流行性角結膜炎

定点当たり3.13人の報告があり、多い状況が続いています。アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

インフルエンザの流行状況(広島市)



マイコプラズマ肺炎の流行状況



### ■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	2688	76.80			突発性発しん	8	0.36	0.28	
	インフルエンザ	393	11.23	3.38		ヘルパンギーナ	-	-	0.29	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	38	1.09			流行性耳下腺炎	2	0.09	0.03	
小児科	RSウイルス感染症	17	0.77	0.11		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	咽頭結膜熱	4	0.18	0.63		流行性角結膜炎	25	3.13	0.55	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	3.41	1.68		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	73	3.32	3.20		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	5	0.23	0.04		マイコプラズマ肺炎	34	5.67	1.67	
	手足口病	7	0.32	0.75		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	12	0.55	-		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減: 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減: 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減: 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい: ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

### ■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
5	水痘(入院例に限る)	1	4	10歳代
5	梅毒	2	131	20歳代・2人
5	百日咳	5	1005	10歳未満・1人、40歳代・1人、50歳代・2人、60歳代・1人